

# シンポジウム「朝鮮通信使と日韓関係の未来」 家康公の平和外交を教訓に

当商工会議所、駐横浜大韓民国総領事館、静岡県日韓親善協会などは平成26年6月19日、しずぎんホールユーフォニアで、シンポジウム「朝鮮通信使と日韓関係の未来」を開催。韓国・江原大学の孫承喆教授の講演の後、仲尾宏京都造形大学教授の司会で、徳川宗家十八代当主の徳川恒孝氏、岩崎鐵志静岡岡県立大学名誉教授、比較文化学者の金両基氏が意見を述べました。



## 韓日間の交流拡大と平和増進のための 朝鮮通信使の役割

孫教授の講演要旨は次の通り。



孫承喆氏

朝鮮南部で略奪を繰り返す倭寇問題を解決するため、朝鮮王朝と室町幕府

が相互に使節を派遣して交隣関係を築いたのが始まり。室町時代には通信使を7回派遣し、朝鮮南部の三つの港を開放して貿易を行ったので、そこには三千余人の日本人が住んでいた。

交隣関係は1592年〜1598年の豊臣秀吉の朝鮮侵略で断絶。朝鮮は日本を不倶戴天の敵としたが、松雲大師と徳川家康の講和交渉により朝鮮王朝は1607年に回答兼刷還使を派遣し、

国交を再開。徳川幕府に12回の通信使を派遣した。その目的は、日本にとっては新しい將軍の襲職を祝って権威を高め、朝鮮との平和を維持することであり、朝鮮にとっては日本の情勢を探索し、日本との交隣を増進することであった。

通信使は1年間かけて、朝鮮国王の国書を將軍に渡し、返書をもたらって帰国。約4千人、4kmの行列を見るため、多くの人が集まった。費用は徳川幕府が負担した。清見寺には、数多くの通信使の詩文や扁額が残っており、文化交流が盛んに行われたことを物語っている。

明治維新の書契で、日本は天皇を朝鮮国王よりも一段上に置いたため、対等を要求した朝鮮との交隣関係は崩れ、1910年には日本の朝鮮侵略で植民地になった。終戦の20年後、1965年に韓日基本条約が結ばれて国交が再開した。

現在、韓日の間を1日1万人以上の人

が往来する。しかし、両国の首脳は、お互いに顔を背いている。倭寇の略奪の時代を共存の時代に、秀吉の戦争の時代を平和の時代に変えた朝鮮通信使の歴史的メッセージを今一度一緒に考えてみたい。

## 心を解くための文化交流を静岡で

討論での意見要旨は次の通り。



徳川恒孝氏

徳川 ● 日本郵船で日本初のコンテンツ・ミナトを担当した後、韓国からコンテナターミナルの説

明に来てほしいと要請があり、1カ月間、韓国に滞在した。家康公の子孫として温かい歓迎を受け、たくさんの方々ができた。歴史的にも近い関係にある両国の大統領と総理大臣が目線を合わせないのは誠にシエム。家康公も国交回復に苦勞された。お互いの心を解くために形に表した何かをやらなければいけない。日朝の文化交流が行われた由緒ある静岡で、文化交流から始めていただきたい。



岩崎鐵志氏

岩崎 ● 日本の国情把握と国威発揚のため、朝鮮通信使は国王から「日本人との漢詩の唱和」の特

命を受けた。漢詩の唱和は、原作の韻字を原作と同じ順序で用いる次韻の形式で行われた。清見寺には、明歴の通信使が賦した漢詩に、正徳の通信使や明和の通信使が次韻した漢詩が残され、さらに大正時代まで連続と続いている。駿府の詩人で医者、徳田飲龍・見龍は父子ともに青年期に朝鮮通信使との唱和を果たしている。朝鮮通信使は、過去のことを現在に伝え、さらに未来へつないでいく方法で、東海道に様々な文化を遺している。



金両基氏

金 ● 徳川幕府が265年間、隣国の朝鮮王朝との平和な時代を築いたのは、世界にも稀な例だ。

その平和を築いた朝鮮通信使をユネスコ世界遺産に登録し、世界に発信しようと6月16日、韓国で委員会が発足した。家康と松雲大師の出会いが朝鮮通信使を生んだが、私が「秀吉の武力外交、家康の平和外交」という言葉を初めて見たのは1955年、神田の古書店だった。1987年に清見寺を訪ねた時、扁額の意味は知られていなかった。優れた歴史が消されていた。朝鮮通信使の世界遺産登録は日韓両国の共同作業であるべき。静岡は傍観者の立場でよいのか？

(文責:静岡商工会議所企画広報室)